

## 避難訓練を実施しました！！

6月26日(木)には、今年度第1回の避難訓練を実施しました。今回は、前橋市で震度5強の地震が発生したことを想定しての訓練でした。全員の児童のお迎えが終わり、おやつを食べ終えた後、落下物から頭を守る「ダンゴムシのポーズ」や「お・は・し・も」の約束(押さない、走らない、しゃべらない、もどらない)、避難場所や避難方法などについて指導しました。

午後4時55分には、幼稚園の放送を使って、地震発生連絡とその1分後には、避難開始の連絡を行い、児童は、支援員の指示によりしっかりと避難することができました。避難後の話もそれぞれの児童がしっかりと聞くことができました。



## 夏休みの児童クラブ利用に向けて = 確認

既に、連絡させていただいており、夏休み中の明和児童クラブ利用については、**メールでの申し込みが、6月28日(金)になっていました。**

また、夏休みの**利用予定表の提出締切とお弁当の申し込み締切が、7月5日(金)になっています。**どちらも忘れずに送信・提出いただけますようよろしくお願いいたします。なお、夏休み中には児童クラブを利用しない方は、「休会願」の提出が必要ですので、よろしくお願いいたします。

### (お弁当の申し込みについて)

お弁当を申し込む際には、利用予定表の印と食数が一致することを必ず確認のうえ、封筒の中に現金を入れ、児童名、保護者名、学校名、食数と金額を明記して、提出してください。**一食が270円になります。**必ず釣り銭のないようお願いいたします。なお、**土曜日と8月12日(月)～16日(金)は、弁当の業者がお休みとなりますので、ご注意ください。**

### (お弁当を作って持たせてくださる皆様へのお願い)

児童が持参したお弁当は、冷房の効いた保育室にあるそれぞれのロッカーの中でお昼まで保管することになります。特に暑さが厳しくなりそうな日には、保冷剤を入れるなど、お弁当がいたまないような配慮をお願いします。

## 子育てのあれこれ No.5

「教育」は、文字のとおり、「教える」側面と、「育てる」側面があると言われています。

そこで、今回のこのコーナーでは、「教えること」と「育てること」について考えてみたいと思います。

例えば次の事例ではどうでしょうか。

### 【場面＝ある年の夏休みの最終日】

・小学校3年生の子どもが「夏休みの宿題」がやりきれなくて泣きじゃくっている。  
母親：「(子どもへ)宿題は大丈夫？って何回も聞いたでしょう！大丈夫じゃなかったの！！(父親へ)あなた、きょうは一日家事をするか、宿題を手伝うか、どちらかお願いしますね！」

父親：「(子どもへ)夏休みの最初に、宿題は計画的にきなさいと言ったはずだよな！計画的にしないと後が大変だと言ったじゃないか！」

\*昔を振り返ると、我が家でもこの事例に近いことがあったような気がします。皆さんのご家庭ではいかがでしょうか？

まず、この母親も父親も夏休みが始まる頃には、「宿題を計画的にしなければならないこと」はしっかりと「教えていた」ようです。「教える」という行為は、「ほとんどの場合は言葉が主となる」ので、教えられる子どもの方は、「知識として獲得すること」になります。しかし、ここで「宿題を計画的にしなければならない」といった**知識を獲得したことは、「宿題を計画的にする」といった行動に結びつくとは限りません。**それは、「宿題を計画的にする」ためには、「宿題を計画的にする態度」が育っていなければ難しいからです。

それでは、「宿題を計画的にする態度」はどのように育てるのでしょうか。例えば、毎日の生活の中で、宿題は必ず済ませてから次のことをすることを徹底的に繰り返したり、それができなかつたときは、「しかられる体験」をさせたりと・・・時間をかけて育てていくのです。事例のような場合は、母親が必死になって助けるよりも、本人が学校で先生にしかられたり、恥ずかしい思いをしたりすることで子どもは、「宿題を計画的にすることの大切さ」を学んでいくはずですよ。

もしも、この子に、自分の宿題のことで先生に頭を下げる親の姿を見せたなら、子どもはかなり重く自分の失敗を受けとめ、次回からはきっと気をつけることができるでしょう。ただし、子どもの性格によっては、重く受けとめ過ぎて心身症になることもあり得るので要注意です。

宿題のことだけでなく、「育てること」は、「教えること」よりも**時間がかかり、根気強く繰り返し取り組むことが必要**になります。例えば、学校での授業などでは、知識を教えたり、技術を教えたりと、「教えること」も多く、それらは、先生や友だちの「言葉」や「行動」から子どもたちは獲得したりしています。しかし、「友だちに優しくする」とか「仲良くする」などは、「育てること」が主なので、失敗を繰り返しながら時間をかけて獲得していくことになるのです。

一方、家庭教育はといいますと、そのほとんどが「育てること」になるのではないのでしょうか。「豊かな心」など「～の心」は、「教える」のではなく、「育てる」のです。「健やかな体」も「教える」のではなく、「育てる」のです。

以上のようなことから、親のスタンスを考えると、「育てること」については、**長い目で余裕をもって見てあげることが必要**ということになる気がします。

\*参考文献 「心づくり、身体づくりの親の役割」(荘舜哉)、「しかるが育てるもの」(高野清純)、「脳の中の人生」(茂木健一郎)、「脳はなぜ『心』を作ったのか」(前野隆司) 他

このコーナーで紹介させていただいていることは、あくまでも理想です。現実には、そう簡単にはできないことが多いので、「できるに超したことはないが、できなくて当たり前」ぐらいにうけとめていただけたらと思います。